

# マアジの新規加入量調査

(資源評価調査)

森脇和也

## 1. 目的

本県のまき網漁業や定置網漁業の主要漁獲対象種であるマアジの新規加入状況を早期に把握するため、日本海南西海域におけるマアジ幼魚の分布状況を推定するとともに同海域への新規加入量の推定を行う。また、得られたデータはマアジ対馬暖流系群の資源評価における新規加入量の指標値とする。

## 2. 方法

本研究では、(国研)水産研究・教育機構 水産資源研究所、鳥取県水産試験場および山口県水産研究センターと共同で中層トロール網による一斉調査(2022年(令和4年)5月~6月)を実施し、その結果を基に新規加入量の推定を行った。

本県の一斉調査(1回目:5月16日~19日、2回目:5月30日~6月2日)は試験船「島根丸」により、島根県西部沖の14点で実施した(図1)。曳網水深は30~50mとし、曳網速度は3ノット、曳網時間は30分間とした。一斉調査から得られた結果について関係機関と共同で解析し、マアジの加入量指数を算出した。

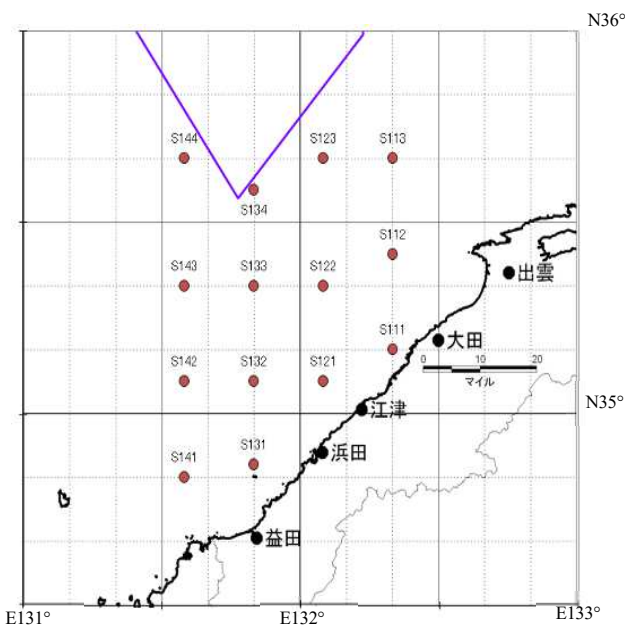


図1 マアジ新規加入量調査の調査点

## 3. 結果

マアジ幼魚の1曳網当たり採集尾数は、1回目が555尾、2回目が386尾であった。

図2に2003年(平成15年)の調査結果を基準としたマアジ加入量指数の推移を示した。一斉調査の結果から算出した2022年の加入量指数(平成15年を1とする)は1.22であり、昨年(2021年(令和3年):0.90)を上回った(図2)。

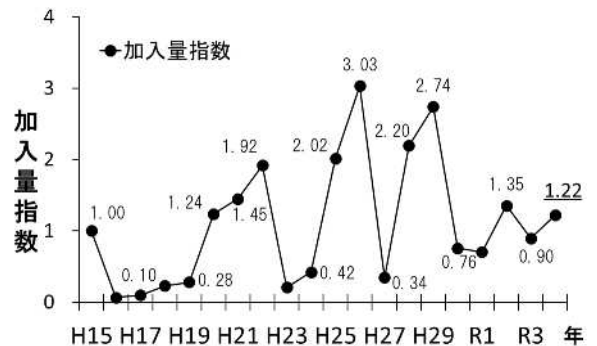


図2 マアジ加入量指数の推移

## 4. 成果

本調査結果はトビウオ通信(令和4年第7号)で報告した。また、研究結果はマアジ対馬暖流系群の資源評価におけるマアジ0歳魚の指標値として使用され、これをもとにABC(生物学的許容漁獲量)が算定され、TAC(漁獲可能量)が設定された。